

◆ 東京都立荒川商業高等学校(公立)

○受講生徒:総合ビジネス科3年生 33名

○使用時間:2コマ(50分×2)

○充当教科:現代社会

○授業のねらい:・年金や医療保険等を対象として、社会保障制度が生徒にとって、これから社会生活を送っていく上で身近なテーマであることを理解してもらう
・映像教材を用いて、年金及び医療保険の仕組みと給付内容、負担について理解してもらう。

○使用教材: ①テキスト

②映像教材

③身近な社会保障ワークシート

④年金ワークシート

⑤教員の給与明細

【1限目】

展開	内容	使用教材
5分	導入 ・授業を実施する趣旨説明、授業の進め方等を説明	
10分	日本の社会保障制度の説明 ・社会保障の考え方と内容を説明 私たちの生活には、自分や家族の病気、傷害、失業、死亡など様々なリスクがあり、そのリスクに対して社会全体でセーフティネットを作り、支える仕組みが社会保障制度であることを伝える。	テキスト 教員の給与明細
10分	日本の社会保障制度の経緯と課題を説明 ・「社会保険」を社会保障の中心として、「社会福祉」や「公的扶助」、「公衆衛生」などがそれを補足する形で発展してきたことを説明する。 ・社会経済情勢の変化に伴い、社会保障制度にも様々な課題が生じていることを説明する。	テキスト
25分	グループディスカッション ・グループに分かれて、身近な社会保障ワークシートの「社会の一員として生きていくこと」のシミュレーションに取組み、グループ内でそれぞれ自分が考えたことについて話し合う。 ・特に、社会がどう成り立ち、社会保障がどう関わっているのかを考える。 ・最後にワークシートに対する生徒の意見を聞きながら、社会保障の理念、社会保障の内容、社会保障の課題をまとめる。	身近な社会保障ワークシート 年金ワークシート

【2限目】

展開	内 容	使用教材
5分	1限目の振り返り ・社会保障制度の機能と役割を確認する。	
25分	映像教材の視聴 ・社会保障制度が私たちの生活に身近なものであることを知るために、映像教材の中から、健康保険、公的年金について学ぶと共に、映像教材をとおして、身近な健康保険と年金の役割・必要性を考える。 ・社会保障制度は私たちの生活を守る身近なものであることを理解してもらおう。	映像教材
20分	教育と生徒との話し合いの中でまとめ ・生徒の数人に、年金や医療保険等に対する理解がどのように変化したかを発表してもらい、教員がまとめることで理解を深める。 ・教員から、様々なリスクとそれを支援するには仕組みが必要であり、社会全体でセーフティネットを作り支えようとする仕組みが社会保障制度であり、一生を通じて私たちの生活を守っている身近なものであることと説明する。 ・また、私たちは社会に属しており、社会保障制度は人々が人間らしく生きていくことができる社会を作る手段であり、社会全体でリスクを分担することが必要であることを説明する。	身近な社会保障 ワークシート 年金ワークシート

(参考)授業を担当した教師や受託会社の授業後の感想(「地域社会保障推進事業実施報告書」より)

効果的だったと思われる点	<p>○商業高校であるため今後就職に向けて準備をする生徒も多いことから、授業の冒頭で、社会保障制度は高校卒業後、数年で自らの問題として考えなければならない点を説明したことにより、生徒の授業に対する関心が高まり、ワークシートやグループディスカッションにも積極的に取り組んだ。</p> <p>○年金や医療保険等のメリットや役割等がある程度理解した後で映像教材を視聴したため、知識を再確認することができた。</p> <p>○グループディスカッションでは、多くの生徒が意見を出し合い有意義な話し合いの時間を持てた。</p>
問題点等	<p>○グループディスカッションでは、議論のテーマがワークシートから離れ多少拡散気味になりそのような場面もあった。議論が拡散した要因の一つとして、グループディスカッションに時間を割きすぎたことも考えられる。今後、社会保障問題に関してグループディスカッションを採用する場合は、議論のテーマや時間配分を示したレジュメなどを生徒に示すことも必要と考えられる。</p>